



# 池島魂



教育目標 「愛顔でより良い未来に向かって努力する子供の育成」 文責：校長



## ～ 能楽公演 ～ 1月25日（木）



「能」<sup>のう</sup>「狂言」<sup>きやうげん</sup>は、室町時代からおよそ650年以上、  
途絶えることなく演じられてきた、日本を代表する舞台芸術<sup>ぶたいげいじゆつ</sup>です。

「能」<sup>のう</sup>「狂言」<sup>がく</sup>を合わせて「能楽」と呼ばれており、梅若研能会<sup>うめわかけんのかい</sup>の方から現在のミュージカルのようなものと説明がありました。

古くは豊臣秀吉<sup>とよとみひでよし</sup>や徳川家康<sup>とくがわいえやす</sup>など多くの武将<sup>ぶしやう</sup>に愛され、現代ではユネスコの無形文化遺産<sup>むけいぶんかいさん</sup>に登録され、海外からも高く評価されています。様々な舞台芸術に影響を与えてきたとされています。

昨日の公演は、下記の内容で行われ、能楽師の方々の圧巻のパフォーマンス、舞台や衣裳にたいへん感激しました。池島小中学校の児童生徒も「土蜘蛛」に中2生徒が源頼光<sup>みなもとのらいこう</sup>役、小5児童が胡蝶<sup>こちょう</sup>役として登場し演技しました。また、「太鼓のワークショップ」では、小3児童が上手に能独特のリズムを太鼓で表現し、「狂言ワークショップ」では、児童生徒とともに観客のみな様も巻き込んで、扇子<sup>せんす</sup>でのお酒の飲み方、泣き方、笑い方などを楽しみました。裏面にもその時の様子を紹介しています。





**能楽公演**  
～巡回公演事業～

- 一 始まりの挨拶
- 二 能「土蜘蛛」ストーリー解説
- 三 能「土蜘蛛」※前半部分に児童生徒出演
- 四 太鼓ワークショップ
- 五 狂言「附子」解説
- 六 狂言「附子」
- 七 狂言ワークショップ
- 八 終わりの挨拶

**休憩**

公益財団法人 梅若研能会

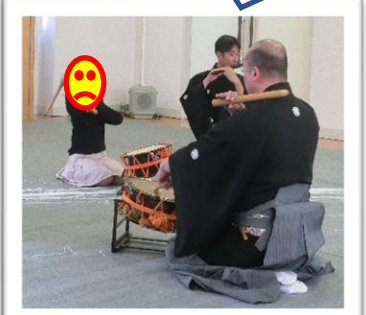



能  
「土蜘蛛」

太鼓  
「ワークショップ」

狂言「<sup>ぶす</sup>附子」

狂言「ワークショップ」



【書初め大会の児童生徒作品】

今年への思いと決意をこめて、書初めをしました！

